

経営比較分析表（令和2年度決算）

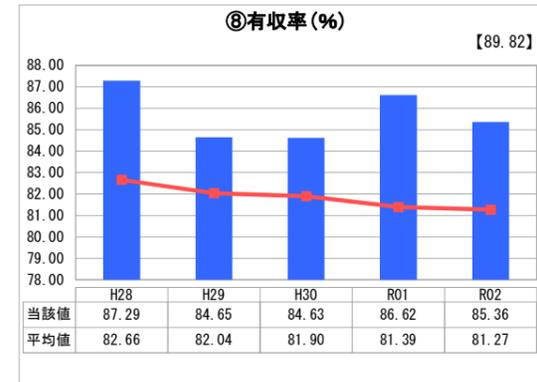
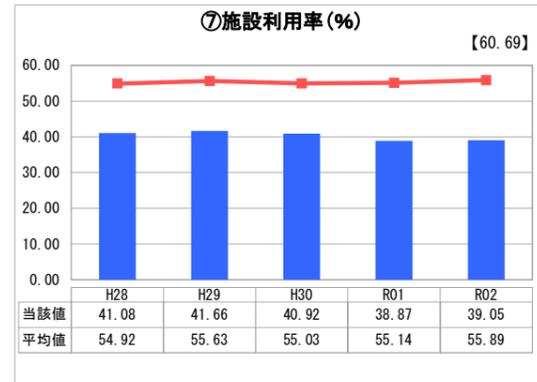
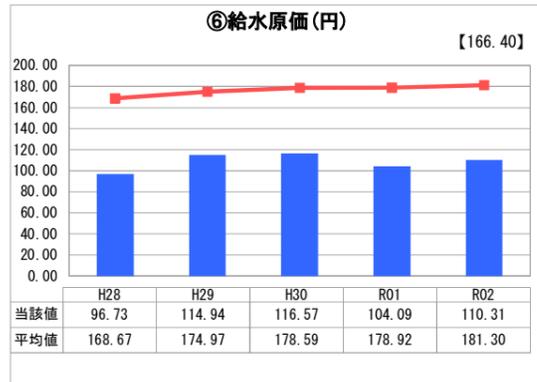
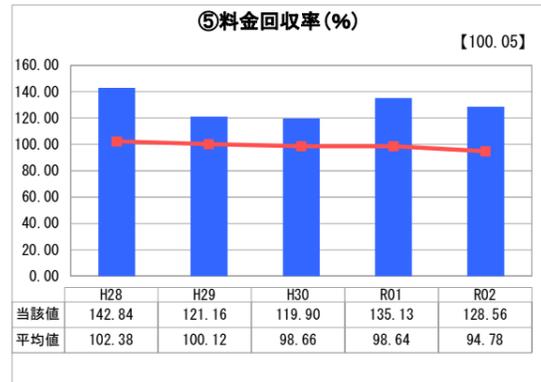
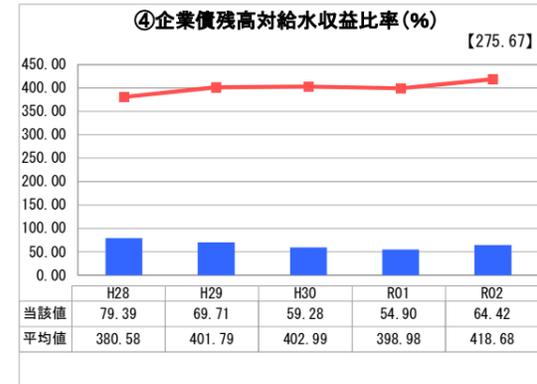
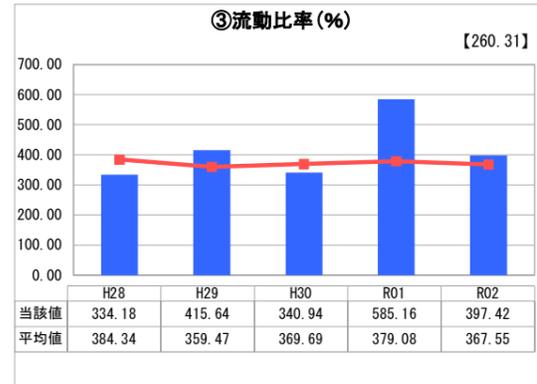
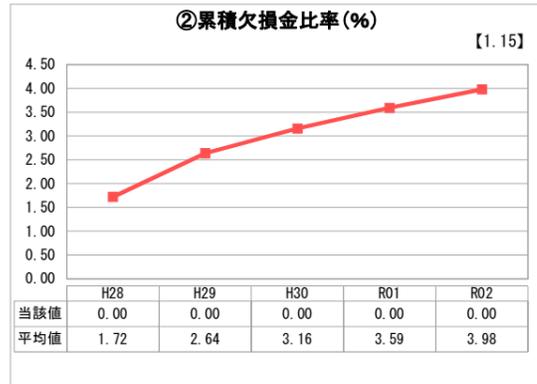
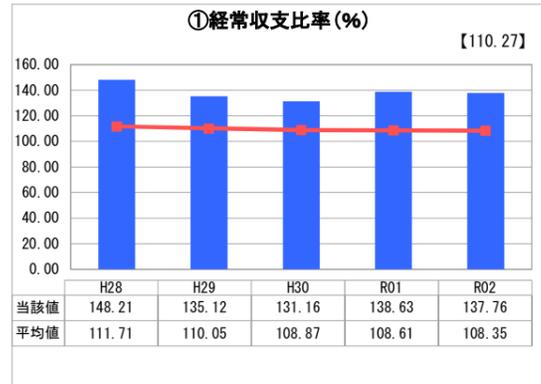
熊本県 水俣市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	90.04	90.65	2,730	

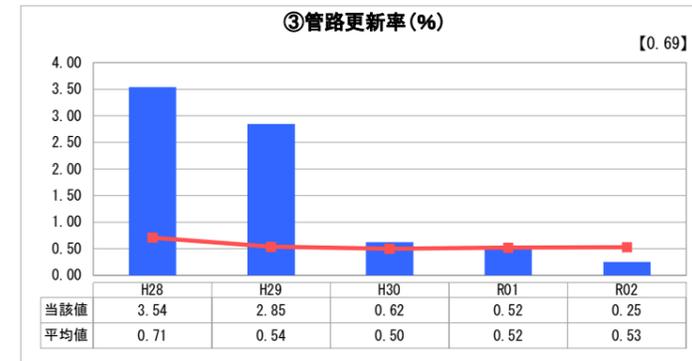
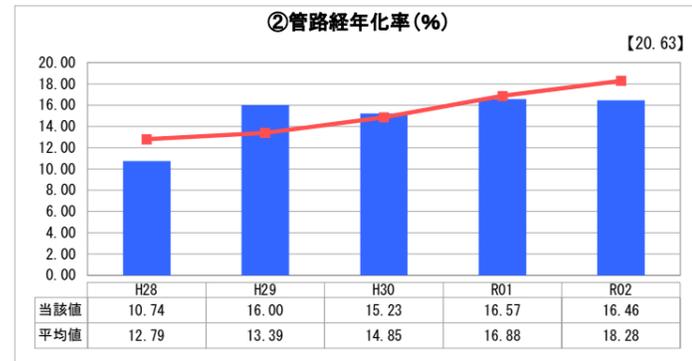
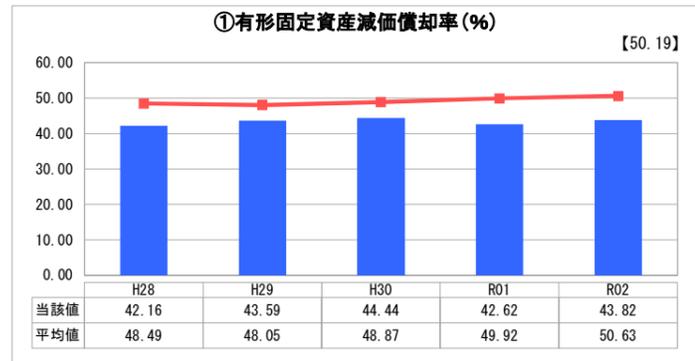
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,756	163.29	145.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,304	26.31	809.73

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和2年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超えており、かつ②累積欠損金等もないため、概ね健全な経営水準と言える。
 ③ 流動比率は短期的な債務に対する支払能力を表すものだが、近年の平均と照らし合わせると類似団体と同水準である。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は類似団体と比べ、低い水準であるが、今後は人口減少に伴い給水収益が減少する見込みであること、企業債の借入が増えることを鑑みると、現在の水準を維持することは難しくなると考える。
 ⑤ 料金回収率は、企業努力等により給水原価を抑えられているため、平均値を上回っており、財源の確保へとつながっている。
 ⑥ 給水原価については、全国平均及び類似団体平均値と比べ、低く抑えられているが、豊富な地下水に恵まれていること、経常費用を企業努力等により抑えられていることが主な要因と考えられる。
 ⑦ 施設利用率は平均値よりも低い水準である。これは人口減少に伴い1日の平均配水量が年々減少傾向にあること、配水量に対し、配水施設が過大になっていることが原因である。今後、負荷率、最大稼働率と照らし合わせ、本市の人口に見合った水道施設の統廃合（ダウンサイジング）も視野に入れ、適正な施設利用率を目指す必要がある。
 ⑧ 有収率は類似団体より比較的高い水準を維持しているが、今後も計画的な漏水調査を実施し、早期の修繕等によりさらなる有収率の向上を目指す。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は平均値を下回っているが、これは近年実施した簡易水道統合事業及び実施中である重要給水施設耐震化事業等により多くの固定資産取得があったため一時的に下回っているに過ぎないと考える。
 ② の管路経年化率、③ の管路更新率ともに平均値と同水準程度であるが、既設管路の維持補修並びに計画的な更新を進めるとともに、耐震管への更新を強化する必要がある。

全体総括

本市の水道事業は、類似団体と比較すると概ね経営状況は良好と判断できるが、給水人口の減少に伴う給水収益が減少するため、老朽化する水道施設等の更新を適切に実施するために必要な資金の調達に困難になること予想される。その中で令和3年3月に経営戦略の要素を組み込んだ「第4次水俣市水道事業経営方針及び中長期計画」を策定し、安全で安心な水の供給、地震に強い水道施設の構築、有収率の向上等に努める。計画には、料金の改定や施設の統廃合（ダウンサイジング）等も組み込まれているため、慎重に進める必要があると考える。